

令和 7 年度の業務履行に対する評価及び意見について（まとめ）

令和 8 年 3 月 23 日開催の第 32 回京都市ごみ収集業務評価推進会議において、令和 7 年度に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート調査結果（個別評価）」などに基づき、各委員から令和 7 年度の業務履行に対する評価や意見をいただいた。

アンケート調査結果などから、これまでの様々な取組を前向きに評価していただいたが、今後の取組に対する意見は次のとおりであった。いただいた御意見を踏まえ、今後のごみ収集業務の改善に活かしていく。

第 3 2 回京都市ごみ収集業務評価推進会議の評価及び意見

意見 1：まち美化事務所における市民サービス向上に向けた取組推進

- これまでから市民満足度の高いごみ収集業務を遂行してこられた点は評価できる。個別評価は、市民からの意見を把握し、業務改善に活かすための良い契機となっている。今後、ごみ収集業務に加えて、各まち美化事務所が地域の実情を踏まえて展開する取組、委託事業者が独自に行うサービス向上等の取組についても、より良いものとなるよう、更なる改善の検討を進められたい。
- 委託事業者において、業務と OJT の中心的な役割を果たす中堅職員の育成強化を図られる点は、組織力の向上に寄与するものであり、ひいては、業務品質の向上及び安定的な履行に有効な取組である。今後、直営と委託事業者の双方が、意見交換を行い、有効な取組を取り入れ合うなど、サービス向上に向けて連携して取り組まれたい。
- 直営及び委託事業者において、交通事故件数の削減に向けて、安全対策を共有し、研修等の充実を図っている点は評価できる。しかしながら、市民アンケートにおいては、依然として、安全運転を求める意見があることから、更なる取組の充実を図られたい。

意見 2：ごみの減量及び適正排出の促進

- 令和 7 年度の市民アンケートでも、約 3 割の市民がプラスチック類を資源物として分別収集していることを知らないという結果となった。その 3 割の年齢別の内訳としては、若年層の割合が多い結果となっている。引き続き、様々な手法での周知・徹底に努められたい。
- 循環型社会の実現のため、子ども服やおもちゃ、陶磁器製の食器などのリユース会を開催し、ごみの減量に向けた取組を進めている点は評価できる。「京・資源めぐるプラン」に掲げる目標を 6 年前倒しで達成したところではあるが、継続してごみ減量に係る取組を進められたい。

意見 3：ごみ出しが困難な高齢者への支援の充実

- 市民アンケートにおいて、定点収集が必要という御意見がある一方、定点収集の推進に当たっては、高齢者や障害者などの定点へのごみ出しが困難な方への対応が必要という声があった。今後の長寿社会の進展や単身世帯の増加等の社会状況の変化を見据え、支援の充実に向けた社会実験を行うことは評価できる。
全市での展開を実現できるよう、しっかりと取組を進められたい。

意見 4：資源物回収及び啓発の充実

- 令和 8 年 1 月に南部クリーンセンターにおいて大規模な火災が発生し、収集時間の遅れなど市民生活への影響が生じた。原因と推定されているリチウムイオン電池については、まち美化事務所が拠点回収や移動式拠点回収、消防局などと連携した回収など、市民ニーズに応える取組を展開されている点は評価できる。
- 平日に回収拠点や移動式拠点回収を利用できない現役世代が資源物を排出できるよう、土日でも資源物の排出が可能な拠点の拡充や回収時間の延長など、更なるサービス向上の検討を進められたい。
- リチウムイオン電池については、その利便性から多くの製品で使用されており、使用製品として代表されるモバイルバッテリーやハンディファンなどについては、主に若年層で利用されている。若年層の関心をいかに引き付けるかを検討し、若年層に届く啓発の取組を強化されたい。